



注: 以下は、KKR が 2024 年 2 月 13 日に米国 NY で配信したリリースの日本語訳です。

KKR、ヘンリー・マクベイによるファミリーオフィスの資産配分レポートを発表

2024 年はオルタナティブ資産向け投資が増加
独自調査よりファミリーオフィスの資産運用に対する積極姿勢が明らかに

世界有数の投資会社である KKR は本日、バランスシート CIO(最高投資責任者)兼グローバル・マクロ&アセット・アロケーション統括責任者のヘンリー・マクベイがファミリーオフィスの資産配分についてまとめたレポート(原題「Loud and Clear」)を発表しました。

本レポートは、平均 30 億ドル以上の資産を管理するファミリーオフィスの最高投資責任者(CIO)75 名強を対象とした独自調査に基づいており、彼らがどのような長期的視座とオーナー・管理者のメンタリティを活かして持続可能な競争優位性を創出しているかを検証しています。

マクベイは次のようにコメントしています。「今回のレポートから明らかになったことは、市場セグメントが変化しており、それが良い方向に向かっているということです。ファミリーオフィスの投資家たちは、資産クラスの分散化を進めながら、経験を積んでおり、非流動性プレミアムの価値を活かしたアセットを複利運用することに長けつつあります。また、より優れたヘッジ手法を駆使することで、市場変動に対応する意欲と能力を高めています。こうした強みを背景に、サイクルが一巡した時には、ファミリーオフィスは最終的には勝ち組として位置づけられるとみています。」

レポートでは、KKR のバランスシートの資産配分目標と、調査対象となった CIO の資産配分目標との間に、いくつかの重要な類似点があることを指摘しています。類似点としては、富を築くためには、税効率の高い方法で複利運用することのほか、ポイントとなるテーマに注力して投資を行うことが挙げられています。テーマとしては、サプライチェーンの混乱、産業の自動化、人工知能、「あらゆるもののセキュリティ」などがあります。今回の調査から得られたその他のポイントは以下の通りです。

- ファミリーオフィスはオルタナティブ向け資産配分を増やしています。平均で資産の 52%がオルタナティブ資産に配分されており、2020 年からは 200 ベーシスポイント増加しています。
- オルタナティブ資産では、実物資産への配分が大幅に増加するなど、目に見える形での分散が行われています。
- 彼らは現金ポジションを 9%と依然高く維持しており、このことは多くの投資家が現在の市場のリスクを過小評価しているという私たちの仮説を裏付けています。
- ファミリーオフィスは、公開株式や現金の代わりにプライベートクレジット、インフラ、プライベートエクイティへの投資配分を増やすとしています。
- 過去 5 年以内に設立されたファミリーオフィスと、新型コロナ前にすでに規模を拡大していたファミリーオフィスとの間では、資産配分のアプローチに顕著な二分化が見られます。一般的には、経験豊富なファミリーオフィスほど現金の保有を減らし、プライベートエクイティへの配分を増やしています。
- 資産配分には地域差が顕著に見られます。米国のファミリーオフィスは、南米、アジア、欧州の同業者に比べて、伝統的なプライベートエクイティへの投資が少ない一方、アジアのファミリーオフィスは不動産への資産配分が比較的多くなっています。
- ファミリーオフィスの CIO は、特に石油・ガス業界やインダストリアル業界で、価値ベースのプライベートマーケットの機会を見出すために、一般的な流れと逆行した行動をとっています。
- CIO らはインフレよりも地政学的課題を懸念しており、回答者の 40%以上が、地政学を現在最も重要なリスクであると認識しています。
- 運用資産を増加させ、資産クラスの分散化の両方を進めるには、より多くのリソースが必要になるとの懸念が高まっています。

KKR

今回のレポート全文およびヘンリー・マクベイの過去のレポートは以下からご覧いただけます。

- 最新のインサイトをご覧になるには、[こちら](#)をクリックしてください。
- 「2020年ファミリーキャピタル調査」をご覧になるには、[こちら](#)をクリックしてください。
- 過去のインサイトはこちらをご覧ください www.KKRInsights.com。

ヘンリー・マクベイについて

2011年にKKRに入社。現在、グローバル・マクロ、バランスシート、リスクチームの責任者を務めています。KKRのバランスシートのCIO(最高投資責任者)として、KKRの事業全体にかかる市場リスクをモニターしています。また、戦略的パートナーシップ・イニシアチブの共同責任者も務めています。さらに、KKRのグローバル・オペレーティング委員会とリスク&オペレーション委員会のメンバーを務めています。KKR入社前は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント(MSIM)においてマネージング・ディレクター、リード・ポートフォリオマネージャー、グローバル・マクロおよび資産配分の責任者を務めていました。詳細略歴は[こちら](#)をご覧ください。

KKRについて

グローバル投資運用会社であるKKR(NY 証取:KKR)は、オルタナティブ・アセット・マネジメント、キャピタル・マーケット、保険ソリューションを提供しています。長期的かつ規律ある投資アプローチを採用し、世界トップクラスの人材を投じてポートフォリオ企業やコミュニティの成長を支援し魅力的な投資リターンを創出することを目指しています。KKRはプライベートエクイティ、クレジット、実物資産に投資する投資ファンドのスポンサーとなっており、また、ヘッジファンドを運用する戦略的パートナーを有しています。KKRの保険子会社はグローバル・アトランティック・ファイナンシャル・グループ管理下で退職金、生命保険、再保険商品を提供しています。KKRの投資に関する記述にはKKRがスポンサーとなっているファンド及び保険子会社による活動が含まれる場合があります。KKRについてはwww.kkr.comをご参照ください。また、グローバル・アトランティック・ファイナンシャル・グループについてはwww.globalatlantic.comをご参照ください。

お問い合わせ

FGS グローバル KKR-TYO@fgsglobal.com

服部 070-7484-7703 / 浅野 070-7425-8483

注意事項

The views expressed in the report and summarized herein are the personal views of Henry McVey of KKR and do not necessarily reflect the views of KKR or the strategies and products that KKR offers or invests. Nothing contained herein constitutes investment, legal, tax or other advice nor is it to be relied on in making an investment or other decision. This release is prepared solely for information purposes and should not be viewed as a current or past recommendation or a solicitation of an offer to buy or sell any securities or to adopt any investment strategy. This release contains projections or other forward-looking statements, which are based on beliefs, assumptions and expectations that may change as a result of many possible events or factors. If a change occurs, actual results may vary materially from those expressed in the forward-looking statements. All forward-looking statements speak only as of the date such statements are made, and neither KKR nor Mr. McVey assumes any duty to update such statements except as required by law.

KKR's Balance Sheet refers to that portion of KKR's corporate balance sheet that is primarily used to support KKR's asset management business, including the general partners of KKR's investment funds and other controlling interests.